

検査

平成24年産秋まき小麦初検査

7月30日道内トップを切って秋まき小麦の等級検査がスタート!!

24年産の秋まき小麦の生育は、は種時期の天候不順で、は種作業が極端に遅れ、さらに空知、石狩、上川では大雪と融雪の遅れにより湿害や冬枯れが発生し、廃耕も平年に比べ多くなりました。その後、高温・小雨で経過したため、出穂期は平年並みに回復しました。春からの生育期間が短くなったことと、は種遅れが重なり、草丈は短め、穂数は平年の8割程度と少なくなりました。登熟期間も、一部の地域で干ばつの影響が強かったところを除き、好天に恵まれたことから十分に登熟しました。

このような生育状況のなか、本年産の初検査が7月30日 JA たきかわ（空知管内）で行われました。検査の内容は、秋まき小麦「きたほなみ」280トンで、その全量が1等（Aランク）に格付けされました。今後、順次全道各地において米穀、豆類など、農産物の検査を実施してまいります。

刈取日	7月21日（土）
検査日	7月30日（月）
検査場所	JA たきかわ 北の米蔵検査場所
銘柄	「きたほなみ」
等級	1等
検査数量	280トン
成分内容	水分 : 11.4%
	容積重 : 870 g / ℓ
	たんぱく : 10.2%
	灰分 : 1.28%
	FN : 368 / sec



JA たきかわ検査場所（検査員大谷光男）

検査部の品位程度統一・指導体制

本年度の検査体制は、従たる事務所97箇所、検査場所213箇所、品位等検査の登録検査員819名、小麦の成分分析検査員3名となっています。

検査数量は、米穀・小麦・大豆など8種類を対象に143万トン进行計画しています。

指導体制では、全道の品位程度統一のため、本部技監4名を中心に指導的検査員である地区統括検査員11名とともにJAの実務責任者を核として程度統一を図ってまいります。



試料鑑定と全道程度統一にあたる本部技監（狩野・樋口・内海・米陀技監）